

美川仏壇

歴史

美川仏壇の歴史は室町時代といわれ、石川県で最初に仏壇製造が始まったとも伝えられている。19世紀中ごろに出た仏壇師の湊屋村次郎は、塗り物の技術に優れ、色物堆黒[いろものついこく]の技法で美川仏壇を一躍有名にした。湊屋の仏壇は、現在、美川を中心に県内に多く残っている。

旧・美川町(現・白山市)は明治維新後、一時、県庁所在地だったこともある大きな港町で、北前船[きたまえぶね]の寄港地として盛えたこともあって、美川仏壇は海路を利用して遠く北海道にまで販路を拡大していった。第2次世界大戦前には仏壇従事者が200人を超え、仏壇の町として地元民謡にも歌われるほど繁栄した。

特色

型板から文様を取り出す色物堆黒は美川仏壇独特の技法として知られている。色物堆黒はニカワと下地漆を固形になるまで素手で練り合わせ、それを1ミリの厚さまで丸太でむらなく平らに延ばし、そして、唐草や花鳥、鞘形[さやがた]模様などを彫刻したケヤキの板の上に敷き、足の裏で十分に踏み続け、その図柄の型を起こす。最後にハンダで白木状態の須弥壇[しゅみだん]や来迎柱[らいごうばしら]に張り、金箔を施して完成するものである。

また、秋田ヒバやイチョウを使った太く丈夫な木割[きわり]や錆地[さびじ]による堅牢な下地塗を基に、蛇腹[じゃばら]細工、粉[もみ]がら虫喰塗[むしくいぬり]、螺鈿[らでん](青貝塗)、金模様打金具などの独特の技法が伝えられている。



美川佛坛

历史和特色

美川佛坛的历史据说是从室町时代开始，也是石川县内最早开始制作佛坛的地区。19世纪中期出名的佛坛大师湊屋村次郎，因其优秀的漆器技术以及色物堆黒的技法而使美川佛坛一举成名。

明治维新以后，美川町成为当时的县厅所在地，是个很大的港口城市。作为北前船的中途港而繁荣昌盛起来，美川佛坛利用海路运输将销路扩展远至北海道。第2次世界大戦前，从事佛坛制造的工匠人数超过200人，作为佛坛产地非常繁荣。

蛇腹工艺，稻壳虫眼涂漆，螺鈿【青贝涂漆】，金模様打金具等独特的技法被流传至今。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	白山市(白山市)
主な製品名(主要产品名)	仏壇(佛坛)
主な生産者(主要生产者)	美川仏壇協同組合(美川佛坛协同组合) 〒929-0224 白山市美川中町イ103-5(白山市美川中町イ103-5) TEL (076) 278-3938